

1 目指す学校像

地域や保護者とともにつくる幸せな（わくわくする）学校 ～ウェルビーイングの向上～

— 今日が楽しく、明日も来たい（期待）学校 —

・児童が元気よく、機嫌よく下校

・楽しいは「快」ではなく、「甲斐」 やりがいのある学校 ～ 受け身ではなく、能動的に

<評価規準>

・学校を取り巻くすべての人が「うちの学校はいい学校だね」と口にする。

・本村小学校ファンが増える。

2 目指す児童の姿

優秀な子（やさしさに秀でた子）

「ありのままに」自分の個性を伸ばし、「なんとかなる」と自信をもち、「やってみよう」と行動し、

「ありがとう」とともに歩んだ仲間感謝する児童

人と人とのつながりを大切にする、笑顔あふれる児童

※世の中で一番の社会貢献は自分がご機嫌でいること、笑顔でいること

育てる資質、能力 ⇒ 国際的に活躍できる人材の育成

・情緒（人の悲しみを自分の悲しみのように感じられる心）

・人間関係（信頼関係）を築く力

他者を喜ばせる力及び他者を称賛しながらその高みに自らも近付こうと努力する姿勢

「お互い様」という意識

・言語能力

豊かな語彙で自分の話を問題解決型で話す

傾聴力（人の話を共感的に聞く力）

・あきらめずに挑戦し続ける心

3 本校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、知性・感性・徳性に富み、広く国際社会に信頼と尊敬を得られる児童の育成を目指す。

○ すすんで学ぶ子

◎ ひとの気持ちを考える子 ⇒ 人の悲しみが自分の悲しみのように感じられる子

○ 体をきたえる子

4 基本方針

めったにできない体験（本物に出会い触れること、多様な交流をすること の中での対話）に
全力で取り組むことでウェルビーイングとエージェンシーの向上を図る

（余力を残さない）

※ウェルビーイング → 選択肢の多さ エージェンシー→ その行為を自分でやりたい

・バーチャルより実体験

そのために、すべての教育活動で教員や保護者、地域（大使館、企業、区の施設）の力を結集し、情緒を育てる。

5 中期的経営目標（6年間で）

本村小学校の使命 ～ 校歌「世にたつ ～ み国をかざる花となれ」

子どもは天からの預かりもの。社会が望む人間（社会に出たときに本当に役立つ人間）に育てることが



○ 社会に出て、自分の得意を生かして人の役に立ちたいと思う児童の育成

- ・人の役に立つ（＝ 他者を喜ばせる）ことに喜びを感じられる児童
- ・自分が大好きなことで誰かの力になれることをやる児童

↑

誰かのために役立っている自分、世の中のためになることに必死に取り組んでいる自分、そのような自分を感じるとき自然に自己肯定感が高まり、心が豊かになる。

全ての教育活動を通して

（1）「人間関係（信頼関係）を築く力」を高める

⇒ 周囲の様々な異質な他者とうまく関わられるようにならない限り、真の自己肯定感は手に入らない。思いやりをもって人と協調することを重視する日本では、人に気を遣うことができ、人とうまくやっていくことができれば、自己効力感が高まり、それが自己肯定感（自分が自分であることに満足し、価値ある存在として受け入れられる）につながる。

○ 世界で通用するコミュニケーション力を付ける

- ・自らの思いや考えを他者に届ける（自己の確立）
- ・異文化理解の前に異文化許容（差異に対する開かれた心）

お互いを好きにならなくてはいいが、「私には分からないけれど、あなたにとってはそれが大切なんだ」と相手を認めること

○ 我慢、寛容、謙虚などの自分をコントロールする力を付ける

- ・相手を自分の思った通りにしようとしなことが相手を尊重することだと気付かせる。

○ 助け合い、認め合い、励まし合う態度を育てる

これらの力を育成するための指導方法

大人も子供も「許す 認める ほめる 励ます 感謝する」

（2）5つの習慣を身に付けさせる

・美しい言葉を使う習慣

⇒ 美しい言葉を教える。「ありがとう」「おめでとう」「大丈夫」それとともに言葉が美しくなる努力や言い方を練習する。

口の暴走「死ぬ」「殺すぞ」「うざい」は深い意味がない。自制心の欠如から出る言葉

6年かけて自制心を育て、口にする言葉を変える。類友の法則

・仲間を大切にする習慣

⇒ 挨拶をするから仲良くなる。「おはよう」の一言が仲良くなる一歩

・貢献する習慣 ・あきらめずに努力を続ける（挑戦する）習慣

・感謝する習慣

⇒ 相手に期待しすぎない。「相手が～して当たり前」という考えをもたない。

人権意識に根差したやさしい心を育むとともに、規範意識を醸成する

- 1 自分を大切にするとともに、お互いのよさを認め合い、協力できる児童を育成
 - (1) 「あんぜん、あいさつ、あつまり、あとしまつ」の4つの「あ」を重視：廊下歩行の徹底 児童主体のあいさつ運動の推進 返事の徹底 5分前行動 遊具の片付け
⇒ やさしい心を見える化する
 - (2) いじめ防止への取組：毎月の生活アンケートによる未然防止・早期発見・早期対応・組織的対応（担任→学年→校内いじめ対策委員会）、hyper-QU を活用
 - (3) 人権週間、人権標語、人権集会の実施
・相手の人権を傷付ける行為は絶対に許さない（いじめを生まない・許さない）学校風土を醸成する。
R8 は4年生代表児童が「こどもたちの人権メッセージ発表会」に参加
 - (4) きれいな言葉とふわふわ言葉使用の励行 「ありがとう」「お願いします」「すばらしい」
・「美しい心は美しい言葉から生まれる」ことを意識付ける。
 - (5) 相手の話を最後までしっかりと聞くことの徹底（傾聴）
 - (6) 道徳教育の充実
・道徳の授業で自分事として考えさせる。
・生命尊重を基盤とした他者への共感や思いやりの心を育てる。
- 2 多様性を生かした教育活動を推進
 - (1) 近隣保育園及び幼稚園との交流
 - (2) 障害理解教育の推進
・若竹学級（特別支援学級）と通常学級との交流学习
・若竹学級担任による通常学級への障害理解授業の実施
 - (3) 連帯感の形成を図るなかよし班活動（縦割り班活動）の充実
 - (4) 地域性を生かした大使館、外国施設訪問及び関係者による授業の実施
- 3 環境教育の充実
 - (1) 環境委員会主導によるフードロスやごみの削減、コンポスト、節電などのSDGsの取組
 - (2) ビオトープの年間を通じた活用
 - (3) 企業などと連携したSDGs体験（おにぎりアクションや古本の査定及び販売体験など）
- 4 規範意識の醸成
 - (1) 本村小スタンダード及び本村SNSルールの徹底
できるまで、形を変えて（手段の工夫）続ける
 - (2) 善悪指導ではなく、「ならぬものはならぬ」を全教職員が粘り強く統一した指導
どの学年もどの教員も同じ指導。週目標の達成度を教師が評価し、児童に伝えることで形骸化の阻止
 - (3) ルールありきではなく、自らの頭で考えて行動する児童を育成（特別活動の工夫）
（校庭遊びのルールを考えさせるなど）

「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の三本柱を重視し、「主体的・

対話的で深い学び」の実現に向けて授業を工夫する

◎「何のために学ぶか」を考えさせるとともに、学ぶ意欲を高め、児童の得意な分野をより伸ばす教育を推進

- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善
- ・言語能力の育成 対話的な学習や協働的な学びによる話す力と能動的に聞く力の育成
⇒ 話す力と聞く力が育つことで児童の承認欲求が満たされ、自分の価値を感じることにより主体的な学びや学習意欲の向上につなげる。
- ・自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した複線型授業の推進
- ・ICT機器（特にタブレット端末）を効果的に活用した協働的な学びの実施
- ・サブティーチャー（保護者）の活用
- ・交換授業の実施（主に理科と社会科）
- ・課題発見・解決力を伸ばすための最先端授業の体験
- ・保護者やゲストティーチャーによるキャリア教育の実施
→ 「なんのために勉強するのか」「勉強がどう生きるのか」
- ・情報活用能力の向上

豊かなスポーツライフのために健康教育を推進する

- ・握力の向上を図るために全学年、年間を通してのボルダリングの実施
- ・運動に親しむ態度を養うために運動委員会などによる啓発活動の実施（外遊びの推奨）
- ・専門家（元プロスポーツ選手など）の指導による運動技能の向上（投げ方教室など）
- ・スポーツ選手との出会いから運動への興味関心を高め、楽しんで体を動かす子の育成
- ・体育の授業研究
- ・栄養士と連携した授業や給食を通しての食育推進
- ・日焼け予防や熱中症予防の授業の実施

6 今年度の重点取組目標と具体的方策

重点 1

【国際理解教育の充実】

1 英語によるコミュニケーション能力の育成

自分はこういう経験をしてこういう考えを持っていると相手に伝えること

【言語】

- (1) 国際科の専科制による授業の充実
- (2) メトロラーニングの活用による英語力の向上
- (3) 校外学習等での外国人観光客等へのインタビュー活動の実施
- (4) 英語体験活動（TGG）の実施（6年生）
- (5) 保護者ボランティアによる英語での読み聞かせの実施
- (6) 外国語による挨拶運動の実施

2 自国や他国の文化について学ぶ機会の充実

【共生】

- (1) 地域性を生かした大使館、外国施設訪問及び関係者による授業の実施
（ニューサンノーホテル・中国大使館・イラン大使館・西町インターナショナルスクール等への訪問や聖心女子大学留学生との交流）
- (2) 6年生の海外派遣児童の校内報告会の実施
- (3) ALT との授業外での交流（ALT の出身国紹介など）

【伝統】

- (1) 生活科や総合的な学習の時間等での日本の伝統文化の学習
 - ・地域の方を招いての昔遊びの体験（1年生）
 - ・ライト俳句の実施（4年生）
 - ・茶道体験（若竹学級）
 - ・和食の学習（5年生） など

重点 2

【ICT を活用した学びの充実】

1 ICT を適切に活用した学習活動の充実

- ・自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した複線型授業「MINATO スタイル」の推進

各学期に1回実施（全学級学校公開で年1回実施 全教員授業観察で年1回実施）

- ・ICT機器（特にタブレット端末）を効果的に活用した協働的な学びの実施
- ・課題発見・解決力を伸ばすための最先端授業の体験
- ・タブレット端末を使用した家庭学習の実施

2 ICT 活用能力（情報モラルを含む）の育成

- ・プログラミング教育の推進
- ・情報モラル教育の全校実施（SNS 本村ルールの徹底）
- ・タイピング力の向上
- ・ICT 機器を使って必要な情報を収集する能力の育成

（コンピュータやウェブサイトを利用して必要な情報を収集、評価し、他の人とのコミュニケーションを図り、課題を解決する。）

重点 3

【基礎学力・活用力の習得】

- ・ 学習規律の確立
- ・ 全児童の基礎学力（学び方を含めたもの）の習得
（すらすら音読 漢字検定の活用 ノート指導の徹底 読書活動の充実）
- ・ 全国学力・学習状況調査、CBT などの結果分析による授業改善
- ・ ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業改善
- ・ 言語能力の育成 対話的な学習や協働的な学びによる話す力と聞く力の育成
- ・ サブティーチャー（保護者）の活用（裁縫、調理、工作、書道などの指導及び英語のスピーチの聞き役）
- ・ 4～6年生での交換授業実施（主に理科と社会科）及び1～3年生の期間限定の交換授業実施

その他

- 1 学校の教育活動の理解啓発を図り、地域・保護者の協力を得るための積極的な情報発信
 - 学校ホームページや x、がくぷり、町会掲示板等を活用し、学校の取組を周知
- 2 教育活動の改善の迅速化
 - (1) 評価を短期的に行い、教育活動の改善を早期に実施
 - (2) 学校行事後の反省に基づき、次年度の計画案を年度中に立案し、必要な情報を発信
(P→D→C→A→P)
- 3 信頼される学校づくり
 - 服務事故ゼロの学校
 - 危機管理体制が確立している学校
- 4 働き方改革の推進
 - コンサルタントを活用した業務改革
 - 情報の5Sに取り組むとともに「所有から共有へ」の意識改革
 - 夏季休業中のリモートワークの推進
 - 平日18時以降の残業時間の申告制の実施 休日出勤の原則禁止